

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 2 日

所属	政策情報学部	職名	教授	氏 名	杉本卓也
研究課題	サステナビリティ・マインドセットの醸成に向けた学生への指導方策 ー自然エネルギー100%大学を目指す学生団体 SONE への関わり方の検討ー				
研究キーワード	ステナビリティ・マイン ドセット、チーム・ビル ディング、教育方策	当年度計画に対す る達成度		2.順調に研究が進展しており、期待どおりの 成果が達成できた	
関連する SDGs項目	12. つくる責任 つかう 責任	17. パートナリシップで 目標を達成しよう	該当なし		該当なし

1. 研究成果の概要

- ・「何のための活動か」「SDGs を達成するための心構え（サステナビリティ・マインドセット）」といった、いわゆるハートウェア育成の部分については、朝日新聞株式会社の「朝日地球会議 2023」（@有楽町朝日ホール、10/19）への登壇機会や、それ以前の「八ヶ岳エコハウスほくほく」でのワークショップ（6/24～6/25）といった活動の中で、外部との関わりを通じて学生自身が考え発表する機会を設けることができた。
- ・市川市との包括協定の枠組みの中で、小学生とその保護者を対象とした地球温暖化に関する環境講座を学内で実施した。環境講座の準備にあたって、市川市環境部環境整備課の担当者とのやり取りや、講座内容や本学の自然エネルギー100%大学の取り組みを分かりやすく伝えるためのスライド作成の工夫など、学生がアウトプットする機会を設けることができた。なお、10/27（金）には包括協定とは別に、市川市立八幡小学校の 6 年生（6 年 2 組）が来校し、同様の環境講座を実施している。
- ・2022 年度に環境科学会で実施した企画シンポジウムの投稿（シンポジウム論文）の査読が完了し、環境科学会誌 37 巻 1 号に掲載された。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載） 【論文（査読あり）】

- ・杉本卓也、手嶋進（2024）「環境プロジェクト活動の企画運営による学生の自己認識への影響」、環境科学会誌 37 巻 1 号、p.15～27

3. 主な経費

- ・上記研究の遂行、および研究成果発表にかかる費用として個人研究費を使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【企業との共同研究】

- ・シンジェンタジャパン株式会社、「ゴルフ場における CO₂ 排出・吸収調査」（2023 年 10 月～2024 年 9 月）
※2022 年 10 月より継続

【その他、外部委員会】

- ・鎌ヶ谷市環境審議会（副会長）
- ・市川市環境審議会
- ・市原市行財政改革推進委員会

（本文は2ページ以内にまとめること）